

令和4年度 広陵町教育委員会会議

○ 開会及び閉会

令和4年10月28日（木） 午後 1時30分開会
同日 午後 3時24分閉会

開催場所： 広陵町役場 3階 第1委員会室

○ 出席委員の議席番号、職名及び氏名

（教育長）植村佳央、 1番委員：（教育長職務代理者）松井秀史、
2番委員：奥田俊詞、 3番委員：岡野聡子、 4番委員：臼井有香

委員の他、会議に出席した者の職名及び氏名

教育委員会事務局教育振興部長	村井 篤史
教育総務課長	福田 順子
学校支援課長	池端 徳隆
スポーツ振興課長	坪水 裕子
図書館長	尾藤 肇子
広陵町・香芝市共同中学校給食センター協議会課長補佐	南 雄太郎
教育総務課指導主事	小峠 博幸
教育総務課指導主事	濱田 健二
学校支援課指導主事	阪口 妙子
学校支援課指導主事	福井 康博

4 議案（1） 小学校給食費改定について

○事務局教育振興部長 続きまして、5番、議案に入らせていただきます。小学校給食費改定について、先ほど申しました別のホッチキス留めの資料になります。

教育総務課、福田課長から説明をさせていただきます。お願いします。

○教育総務課長 失礼します。教育総務課、福田です。座って失礼させていただきます。

学校給食費の改定ということで、資料のお手元4ページをご覧ください。

私のほうから次の総合教育会議でもまた説明させていただきますので、主なところを説明させていただきますと思います。

4ページを見ていただきまして、学校給食費の仕組みです。学校給食費に要する経費は、ここに挙げているようになっております。一番上から賄材料費、こちらはパン・米飯・牛乳・おかず等の代金です。続きまして、調理に要する光熱水費、施設設備費、備品などです。また施設のほうの修繕費、そして調理する方の人件費と、このような形になっております。いわゆる学校給食費と保護者の方に負担していただいている部分は、一番上の賄材料費のみとなっております。

続きまして、5ページです。上のほうを見ていただきまして、こちらは小中学校のこれ

までの給食費の改定経過を載せております。小学校につきましては物価上昇の理由によりましてこれまで3度改定をさせていただいております。一番最近は平成26年の7月に4,200円に改定して、以後約8年間を据え置いている状態です。平成28年9月から給食が開始されておりますので、そこからずっと4,500円で6年間。また、令和元年の給食委員会で令和2年度から給食費を月額4,500円にするということで、給食委員の皆様には了承を得ていたのですが、新型コロナウイルスの影響によりまして令和2年度の給食費を無償で実施するということになりましたので、その後の給食費の改定は見送るということで現在に至っております。

次に、実際の給食費の内訳です。給食費は主食、副食、牛乳というものからなっております。これら全ての価格が高騰しているところですが、同じ給食費で提供するために主食と牛乳は県から購入しております、こちらのほうが値上がっておりますので、この部分が給食費を圧迫し今、副食費が少しの状態になっております。副食費抑えて対応しているということになっております。

続きまして、ページめくっていただきまして6ページです。こちらは、実際どれぐらいの価格が高騰しているかをまとめたものになります。まず、①主食と書かれている部分ですが、こちらは平成27年度からパンとご飯、平均すると4.54円上がっております。次に②牛乳と書かれているところですが、平成27年から今と比べると9.09円増加しております。そして③副食と書いている部分は、給食費1食単価253円でどれだけ副食費にお金を使えていたかという金額なのですが、こちら平成27年では163.32円が副食に使えていたのですが、令和4年度は149.69円、27年と比べると13.63円使えなくなっていることを示しております。

続きまして、その下です。副食費の価格の高騰についてということで、消費者物価指数から食料品がどれぐらい高騰しているかを比較しました。平成27年から令和4年では、食料の価格は上昇傾向にあり、年平均で13.1%上昇しています。

その隣、高騰の理由ですが、いろいろな理由がありまして、まずは人件費の上昇、そしてロシアのウクライナ侵攻や円安、消費税の増税などなどいろいろな理由があるのですが、安価な食材を使用したりデザート回数を減らしたりと、冷凍野菜やカット野菜を使用するという献立の工夫により何とか4,200円で給食を実施させていただいているのが現状です。

続きまして、8ページに移ります。こちらですが、食材料費の価格上昇ということで、改定が必要な1つ目の理由ですが、食材料費の物価高騰というのが挙げられております。先ほどもお伝えしましたように、ご飯・パン・牛乳、こちらの表に示したように価格が上昇していますので、副食費の工夫により価格を抑えてきました。しかし、今月10月からも食料品における物価高騰がたくさんありまして、工夫だけではなかなか対応が難しく、現在の給食を維持することが難しくなっています。

そこで、今年度は議会の承認も得まして、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金というものを給食費に2学期から保護者負担である4,200円に1人当たり300円を足して4,500円で給食を実施しております。

次に、2つ目の理由ですが、その下、学校給食摂取基準の改正というのがあります。平成27年から令和4年では小中学校ともに給食でとるべきとされるエネルギー量の基準

が上がっています。そして令和3年の食品成分表が7訂から8訂に変わったことによりまして、食品のエネルギー量が平均約9%、1割近く減少しております。これは今までと同じ献立をエネルギー量を比較すると約9%少なくなるということになりますので、たくさんエネルギーをとるために食材がたくさんいるということになります。

続きまして、隣のページ9ページです。給食費の改定額の案なのですが、現状といたしましてはそこに示させていただいていますように、保護者負担年額4,200円掛ける11カ月で4万6,200円を保護者からいただいております。それを小学校の給食回数の182回で割ると1食単価が253円ということになります。令和3年度は牛乳1本に対して10円補助する牛乳補助金として牛乳の発注本数掛ける10円を給食を実際に喫食した延べ人数で割った9.6円を1食当たりの補助額としまして、1食単価に足した253円と9.6円を足した262.6円を実質の1食単価として給食を提供しておりました。

次のページめくっていただきまして、ここで改定額を算出するのにこちらの表を先ほど見ていただきましたが、主食費の上昇した金額4.54円の分をAとし、牛乳の上昇額9.09円をBとしまして、その下、副食費の1食単価における価格上昇については、平成27年に使っていた副食費163.32円に消費者物価指数の上昇率の13.1%を計算しまして、184.71円、増加率が21.39円、これをCとします。そこでその主食増加額のA、4.54円と、牛乳増加額のB、9.09円と、副食増加額のC、21.39円を足しますと35.02円、こちらが増加する金額、同じものを提供しようとする35.02円足したものが必要になるということです。それを1食単価に直しますと253円に35.02円を足した288.02円が1食に必要な価格となりました。この288.02円を年額に直しますと、182回を掛けて5万2,419.64円となります。これを給食11カ月分の徴収回数で割りますと1カ月当たり4,765.42円、こちらが実際に必要となります。

そこで、改定額の案なのですが、保護者負担を軽減するために現行の牛乳補助金を賄材料費全般とする食育推進事業補助金へ変更する予定です。食育推進補助金1食当たり10円掛ける182回は1,820円です。なので、1人当たり年間1,820円補助させていただいて、5万2,419.64円から1,820円を引きますと5万599.64円です。これを11カ月で割りまして1カ月当たり4,599.96円になるために、保護者負担額を4,500円で実施したいと考えております。

ちなみに中学校給食費なのですが、香芝市と共同の給食センターであるということ、食数が多いということ、1カ所納品という理由から、食材を一部入札によって行っていることもありまして、中学校給食費については値段は据置きということでセンターのほうから確認しております。

ここまで、先月末に開催した広陵町小中学校の給食委員会で同じ内容を説明させていただきました。この額の案で了承をいただいている状態です。ただ、来年度から給食費の増額分を保護者様にも負担いただく予定で了承をいただき、条例の改正等々を進めていこうと思っていたのですが、もう今月に入って既に牛乳が1本当たり2円上昇する予定ということで県から通知が来ていますので、教育委員会といたしましては、来年1年かけてこの金額がいいのかどうかということも含めて検討させていただきたい。4,500円にとどめるのがいいのか。もう少し上げないといけないのかということも検討させていただきた

いので、その間、4, 200円に給食費を据え置きまして、町の補助金を充てさせていただけたらと考えております。このことについて今日はご意見をいただければと思います。

説明としては以上になります。よろしく申し上げます。

○教育長 ありがとうございます。今、福田課長から概要説明をしていただきました。総合教育会議でさらに詳しくという部分はあるかと思うのですが、今、話を聞いていただいた中で委員さんからご意見等いただけたらと。ちょうど9月末の給食委員会で実際こういった形で、保護者の皆様には了承はいただきました。本当は400円か500円にするのと違うのというご意見もいただいたのですが、やはりいろいろな状況の中で中学校給食と最終的には合わさないのかなということもあって、中学校給食は160回なのでね。

○教育総務課長 はい。

○教育長 だから、単価で言えば309円となります。ところがトータル1月単位になりますので、どうしても4,500円より上へは上げられないかな。給食委員会で出たのは、4,599.96円、いわゆる99.96円をどうしますかという話があって、それは町のほうで一般会計のほうから繰出しをしますという話をさせてもらったのです。そういうことで保護者の皆さんには了承はしていただいたのです。ただ、その後、10月1日からはかなり物価が上がり、その数も6,000品目でしたかね。ましてや牛乳のほうも11月1日から値上げという通知がありました。そういう状況でまだまだこの物価高騰が続く中で、なかなかそこは難しいという話になりました。4,500円では取りあえずは了承を得たのですが、教育委員会としてはもうちょっと様子を見ようか。その物価の高騰自体がまだ安定していない状況で、ひょっとしたらまだまだ上がる可能性もあるでしょうし、そういった状況の中でもう1年だけちょっと様子見よう、その間は全て町の一般会計から繰り入れていこうかということです。最終的には総合教育会議で決定してもらうことになるかと思うのですが、町長のほうもその方向でいいのではということも言っているのです。そんな中でご意見いただけたらと思うので、よろしく申し上げます。実際今、実情から言ったらかなり厳しくて、いわゆる副食費をかなり抑えている状況があります。どうでしょうか。

○松井委員 質問よろしいですか。小学校と中学校の給食費、現在は違いますよね。

○教育長 はい。

○教育総務課長 はい。

○松井委員 だけど今、教育長さんのお話では、これを値段を改定していくときに中学校とそろえなければならないというようなお話ありましたね。

○教育長 保護者の思いを考えると、小中の兄弟姉妹がいる中で、片や小学校のほう若干高くなるというのもどうかということで、一応4,500円にしたのですが、本来は回数も違うので、そこは見えてこないですね。まずは月額いくらというのが一般的に表現されていて、小学校のほうが高いやん、何でやっていうのは若干あるのかなということで、教育委員会事務局としては4,500円で一応抑えておこうかという話になったのです。ところが実際は違うのです。その単価で言えばさっき言ったように253円と309円です。そこは難しいのです。

○松井委員 その辺は町民の方々に説明するとき、単価がこうでということで小学

校と中学校はこういうふうが違うのですよということで、両方そろえるというかね。その枠に縛られる発想というのは、そこまで厳しく思わなくてもいいのではないかなという気はします。だから、改定していくんだったらやっぱりその事実、実態が一番大事なことであって、その事実に基づいて基づいて計算した結果、こうなのですと。だから、何となくそろえなければならぬとかね。そういうことはあまりこだわらなくてもいいのではないかなと思います。価格の設定は別にして、発想としてね。

○植村教育長　ありがとうございます。

○松井委員　この議題掲げていただいたので、文科省の全国調査の経年変化を見てみたのですが、やっぱり小学校と中学校は違います。中学校は一般的に高くなっている。結局副食費の量というのもあります。量が違うので、中学校のほうが高くなります。その事実に基づいて積算していくわけだから、それを無理やり小学校と中学校そろえるというのは、発想としてはあまりこだわらなくていいんじゃないか。例えば、小学校でも低学年と高学年と分けて値段を設定しているところも全国的にはあります。そのあたりは基本的にはそういう形で考えていっている。価格の設定はそうですけどね。

○教育長　ありがとうございます。

○学校支援課長　今、ご意見いただいた中で、参考になるかどうか分かりませんが、広陵町と香芝市は中学校給食センター、ご存じのように共同でやっております。ただ、香芝市のほうは小学校の給食費、数年前に4,200円から4,500円に改定をされた。ただ、改定ありきではなかったのですが、どこも実情は同じでございます、なかなか現状では材料費だけでもしんどいということからそのようにされた。香芝市はこの改定については規則で規定をしております。広陵町は条例ということで議会の権能といいますかそちらのほうに諮ってというふうな流れになってございます。それは関係ないのですが、やはり近隣で香芝市も4,500円やからということではないのですが、それでもまだちょっとしんどいというようなことを聞いております。将来的にはそれこそ改定ありきではないのですが、今、何とか入札でその4,500円を保っておる中学校の給食費もいつまでこれがもつか分からないというような流れです。4,500円というのは香芝もそういう経緯がありましたので、参考までにお話させていただきました。

以上でございます。

○教育長　ありがとうございます。

○松井委員　それからもう1点、改定の経過、この資料の5ページに示していただきましたが、広陵町の給食費改定は、かなりそれぞれの場面で頑張っていると思うのです。これも調べてみたのですが、奈良市の例を見たのですが、奈良市は2、3年置き、大体2年ですね。2年ぐらいごとに改定して行って順次値上げしている。各自治体の財政状況というのは違いますから、その自治体の財政力に応じてこれも違うと思うのですが、改定というのはやっぱりそのお金というのは出てくるわけではありません。だからそのあたりはその物価の状況に合わせてこの今までの改定年度のたびに町が努力していただいたと思うのです。それは感謝したいと思います、これから先、これだけ不安定な時代に、過去の例がこうだから、これからもこうだということで、それも縛られることについては、そこまで考えなくてもいいんじゃないかなという気はします。

○教育長　岡野委員、どうですか。

○岡野委員 親の立場、私は安いほうが本当に助かります。けれども、もうこれだけの物価上昇を見ておりましたら、もう給食事業自体が立ち行かなくなっていくんじゃないかというふうに思いますので、今、委員がおっしゃったとおり、何で小学校と中学校と金額を合わせないといけないというこの考え方が私も分からないので、そういう枠を本当に取っ払って必要に応じた金額をいただくというのが通常かなと思いました。

○教育長 ありがとうございます。奥田委員、どうでしょうか。

○奥田委員 たしかに難しい問題です。とにかく全体として必要なところは必要なところで線を明確にお示しをしてご協力、ご理解いただくということ。それからもちろんその負担が生活にかなり負担になってくるご家庭とかももう出てくるかも分かりません。それはそれでまたケアすることを考える。ただ、おっしゃるようにこの事業そのものがもたなくなるのも1つですけど、内容自体が抑え過ぎて本当に十分な給食になっていないようなことになると、これは子どもたち全体に対しての影響になりますので、だからやっぱり最低限子どもたちに必要なものは提供できる状況を維持することが必要かと思います。

○教育長 ありがとうございます。臼井委員、保護者の立場でどうですか。

○臼井委員 保護者の立場で。私、今、保護者の立場というよりは、気になったのは、一旦4,500円にしてそこからまた上げるという案は出なかったのですかね。この今、1年延ばすということで、この1年で一般会費から補充するのって一体全体で幾らになるんだろう。その補充をしないといけない金額は、ちょっと今出ていないので分かりませんが、かなり大きいんじゃないのかなと思って、何か理由があって1年、やっぱり何回も上げにくいというのがあるのかもしれないですが、そこも先ほどおっしゃったその説明の仕方次第だとは思いますが、実際に上がっているのであればお母さん方は物価上昇は絶対感じていますから、人件費も今年のこの今月から最低賃金上がっていることも分かっていますし、理由は説明次第でご理解いただけるのかなとは思っています。例えば一旦4,500円にして、また1年ないし2年で小学校、中学校をまたちょっともう一回上げるというのは難しいのかな。どうなのですかというのがちょっと気になって。

○教育長 4,500円に上げました。そして、また来年上げるとなるとなかなかその辺、実際はかなりいろいろな調整が必要になってきます。それだったら1年だけ待って。実際はまだまだ上がる可能性は高いようには思ったので、そういう意味での1年据え置いて来年もう一度そこはしっかりと根拠となる数字を確認しながらその額で行こうかなとは思っているのです。

○臼井委員 手続の煩雑というか。

○教育長 まあ、その辺もあります。

○臼井委員 があるからという。

○教育長 若干そこは。どうですか、課長。

○教育総務課長 あと1つは、コロナベースのコロナ禍の中での影響というのがありまして、町としてもそこを補助してもいいのではないかなという意見もいただきましたので、というところが1つありますかね。

○教育長 課長、お願いします。

○学校支援課長 すみません。当時、所管でございましたので、経緯をもしご存じなければということで、学校全体が休業になった時期がございました。そのときにはある意

味英断で政策になろうかと思うのですが、広陵町は1年間給食費はもういただかないとさせていただきます。これ費用にしたら億を超えます。1億数千万かかったわけですが、そういう形の政策をとらせていただいたと。これもそういう国からの補助、コロナの関係のお金を充てたわけなのですが、近隣の自治体とあまり比べるということはどうかと思うのですが、近隣の自治体は学校を丸々休んだその2カ月間、その部分だけはもうもらわないとか、そういうことでまちまちでございました。そういう経緯もあって、なかなかやっぱり値上げをするということはそれなりの必要な資料も出していくのですが、やはり10円でも上がるということに関してはやっぱりやめてほしいという意見もあります。そのような中でこれ多子世帯の学校給食費の支援金ですが、いわゆる第3子のお子様について一定の要件はあるのですが、もうこの給食費の相当額を支援させていただこうと、現年ではないのですが、そういう施策も考えました。実施をすればまずこの多子世帯の学校給食費の支援金を先に適用して、そういう対応もさせていただいて改定に持っていくという、絵を描いたと言ったら語弊があるのですが、そういうふうな流れで教育委員会のほうは考えておりましたが、それもコロナ禍の状況に引張られたというようなこともありますし、実際手続的になかなか議会のほうの同意も得られにくいということで、今に至っております。そのようなことで、教育委員さんのその意見いろいろいただいた中で、そういうご意見もあったというところでももちろん参考にもさせていただいて、改善が必要であればそのような形に持っていかなければいけないのですが、今まではそのような経緯がありましたので、お話をさせていただきました。そんな状況でございますので、思う時期には改定ができなかったというところがありますので、ご理解いただけたらと思います。ちょっとまとまっていませんけど。

○**臼井委員** 今、多子世帯のはないのを作ろうとして。

○**学校支援課長** いや、今はもうこれはあるんですよ。

○**臼井委員** あるんですね。

○**教育長** はい。今年度から多子世帯の第3子から補助をさせていただいております。会議資料の15ページにその多子世帯について説明させていただいております。

○**臼井委員** いや、一気に600円上がるというんやったら、300円やったらまあいいかなというね。そのほうが私は保護者たちは、まあしょうがないなって思っていたできやすいかなって思ったのです。

○**教育長** 松井委員。

○**松井委員** 横並びというのはあまり発想ではないのですけどね。この改定案を進めるときに物価水準がよく似た北葛城郡ですね。葛城市とかそれから河合町とかですね。そのあたりもどんなふうに進めているか。あるいは現状がどんなふうになっているかということは調べられました。

○**教育総務課長** はい、調べました。

○**松井委員** 広陵町と比べて、例えば上牧町、河合町はどうなのか。そのあたり分かりますか。

○**教育総務課長** すみません。今、手持ちに資料がないのですが。

○**松井委員** 結構です。そしたら。私ね、文科省も全国の調査、今年ですね。令和4年9月の調査見たので、全国平均では4万8,684円でした。全国でかなり高いところ

も低いところもずっとありますけど、平均、資料では4万8,684円。そうすると、広陵町今度改定では年間幾らになるのですかね。今、4万6,200円ですね。

○教育総務課長　今、4万6,200円ですが、改定すると4万9,500円になります。

○松井委員　4万9,500円ね。

○教育総務課長　はい。

○松井委員　そうすると、全国よりもちょっと高くなりますね。しかし、それは物価の非常に安い地域もあるし高い地域もあるから、平均ですから広陵町は決してそんなに安くはないと思うし、そうすれば資料を整理して納得できる材料ができればそれでいいんじゃないかという気はしますけどね。

○岡野委員　あと、すみません。ふと思ったことが、やっぱりその給食費の経済面のことももちろん重要なのですが、町としての例えば広陵町は子育てを第一に考えた町だとか、何か理念みたいな何かそういう理念みたいなものに即してこの給食費も考えてみてはどうか。何かいきなり給食費ゼロ円にするとかそういう話じゃないのですが、何かいつもその物価のこととか経済のこととか、もちろん前面に出してしまうわけなのですが、広陵町としての大きな指針みたいなありますよね。基本要領とか何か作りましたので、何かあのあたりのこともう一回ちょっと掘り起こしてみて、この給食費を考えてみるということも大事になってくるのかなというふうに思いました。何かいつも経済のことばかり引っ張られて、物価が上がったからこの値段高くしなきゃとか、何かそういう感じで右往左往しちゃう面てやっぱりあるかなと思って、そうじゃなくて、町としての姿勢、町としての理念、何かそれに基づいて政策って考えられたらいい。理想論かもしれないですが。

○臼井委員　要は予算をどこに使うかってことですよ。

○岡野委員　そうですね。予算配分の。

○教育長　確かにそうですね。

○岡野委員　何かそういう考え方が、今の時代って非常に重要になってくるかと。

○教育長　確かにそうですね。いわゆる首長の思いみたいなものがやっぱりどうしても反映しますからね。実際、広陵町自体は子育てしやすい町と言われていて、結構子育ての支援はいろいろやっています。そういう意味では1つの形としては給食のほうに支援をするということも1つなのかも分からないですが。だから、全体、ただそのバランスをどうとるかというのが非常に難しいこともあると思うのです。何に、いわゆる町民からの税金を基に一定どのように使うかというのが一番大事な部分です。そこはやはり町長の思いが一番優先されるのかなと思ったりはするのです。非常にそこは確かに経済とかいうより、岡野委員が言われるように、その町としての確かに1つの方針みたいなものがきっちりあって、そこに目指して行くぞとなったときに、今までよりははるかに重点的に補助していこうとかいうのもあってもいいのかも分かりません。ありがとうございます。ほか何かございませんか。今、いただいたご意見、また恐らく総合教育会議でも同じように、もう一度相談はさせていただきますが、そこで1つの一定のその答えは、今度は町長もおられますので、そういう意味ではその思いみたいなもの、また同じような形でちょっとそこは岡野委員もご意見いただけたらありがたいというふうに思います。今、いろいろ話をさせていただいた内容についてはもまた話をさせていただいて、そこでいわゆる首長部局との意

見もございますので、そこでいろいろより議論していただけたら一番いいのかなとは思っているのです。なかなかちょっと悩ましい部分がありますので。ほかどうでしょうか。取りあえずはもう一応この議論で終わっておきます。教育委員会として1つの一定の方向って出す必要あるかな。ないですね。どうですか。一応そういったことでは進めたけども、いろいろなご意見いただきましたけども。

○学校支援課長 お母さん方が当時、今もそうだと思うのですが、やっぱり値上げは要らないという人もわずかですがおられました。やっぱり自分の子どもにしかっかりとおいしいもの、栄養のあるもの、子どもが楽しみにしている給食をちゃんと出してくれるのであれば、改定というようなことは実情に合わせてやむなしと。そのときにいろいろ話させてもらって、私どももいろいろ調べて、やっぱり子どもの好きなメニューというのも大事です。そればかりは栄養価の問題で出せませんが、名古屋市とかでも長い間給食費改定をせずに頑張ってきたけど、子どもが大好きなエビフライが年間何回か出ていたのが、もうだんだんなくなって、その代わりに増えたメニューは切り干し大根だと。これではやっぱりお母さん方から逆に何とかしてほしいというようなこともあって、そういう経緯があるというのもいろいろ雑談的になりますけど、いろいろ調べて、そんな話で給食委員会もずっと回らせていただきました。今、何とかそういう流れの中でやっぱり時期を見誤るといかならうということで、岡野先生が言うてくださるように、子育て支援ということであれば、これ給食費は小学校、中学校だけと違いますので、子育て支援ということであれば保育園とかこども園とかのその辺のトータルで行かなければなりませんので、よりちょっと難しくなるなというようなところで、その段階では確かに議論が煮詰まらなかったのです。そういうこともございました。何か昔の話ばかりして申し訳ございません。

○教育長 いえいえ。ありがとうございます。

○岡野委員 でも、本当に町としてはもう努力に努力を重ねてこの値段というのはずっと見続けてまいりましたので、もうそれはよくよく存じています。でも、だからこそのちゃんと理念に向かっていくというか、何を大事にしたいのかという、そういうことの議論というのが重要になってくるのかなというふうに思った次第です。

○教育長 ありがとうございます。岡野委員におかれましては、広陵町の総合戦略の審議委員など、いろいろ関わっていただきましたので、そういう意味でももっと広い意味での町政に対してというような思いを持っていただいておりますので。ありがとうございます。ほかどうでしょうか。これで、こういう形で課長、どうですか。結論は出ません。

○岡野委員 結論もし出さないといけないのであれば、私はこの値段でもう十分と思います。

○教育長 この値段というのは要するに、取りあえずの4,500円。

○岡野委員 そうですね。ひとまずこの4,500円。

○教育長 実際のところは、今年度末、いわゆる来年の3月末までは取りあえず300円をその地方創生臨時交付金で充てておりますので、実際は4,500円のメニューで作っていただいています。先ほど説明がありましたが、副食費をグッと抑えたということでしたが、9月からは300円を上乗せして対応させていただいております。物価が上がった分だけで、抑えていたというのは今年度の4月から7月までの間がそういった形で副

食費をグッと抑えていました。ところが9月からはそこは一定その300円を入れて4,500円の状況の中でやっておりますので、そこはいいのですが、ただ、全体としてはやはり保護者のほうもそこは分かかってもらっていない部分もひよっとしたらあるのかなというふうには思うので、4,200円でもうずっと落ち着いていますのでね。一応学校のほうからの通知はしてもらっているのですが、9月から上がりましたよというのはしてもらっている。ではなかったかな。

○**教育総務課長** はい。上がりましたという通知はしていないかと。地方創生交付金を充てていますというのは広報上の話で、保護者の方は4,200円実際に納められていて、もしかしたらほとんどの方が4,200円で行けていると思っておられるかもしれませんが。今現状4,500円でメニューを実施しているところまでは伝えられておりません。

○**教育長** この前の給食委員会では、取りあえず、各学校のPTAの代表の方が来ていただいていたので、私の最初の挨拶の中で300円を上乗せしたという形で今年度7カ月間は減免させていただいておりますという話により、ああ、そうなんやということは言っていたいたのです。

○**岡野委員** やっぱり4,500円かかっているということがちゃんと明確でないのであれば、それはちょっと明確にしておいたほうがいいかなと。でも、今の時期になかなか言えないですね。

○**教育長** なかなか難しい状況ですね。

○**松井委員** 今のお話やったら、今、連絡する時期を外したら、来年のその学年の変わり目にもう一回きちんとそのときに周知しておいたほうが。

○**教育長** そうですね。何らかの形でちょっとそこはしておくべきなのかなと今、思いましたね。

○**松井委員** 幸い1年間はそれで行くということではなっているわけですからね。

○**教育長** はい。

○**臼井委員** すみません。1年間というのは次の3月まで。

○**教育長** そうです。今年の9月から来年の3月のこの7カ月間が取りあえず4,500円での給食を作っているのです。

○**臼井委員** で、3月にもう一回見直す。

○**教育長** はい。それで、その本当はそうと思っていたのですが。

○**事務局教育振興部長** 5年の4月からまた1年間300円は町で補助しましょうということでもう。来年度の1年間で見直しをしましょうという話になります。

○**松井委員** そうですね。

○**臼井委員** だから、結局1年7カ月ということですよ。

○**事務局教育振興部長** そういうことになります。

○**教育長** そうそう。

○**松井委員** 令和5年度は4,500円ということですね。

○**事務局教育振興部長** はい。ただ、集めさせていただくのは4,200円ということで。それは4,500円で収まるのかどうかというのを来年度1年間で見極めさせていただきたいというようなことになります。

○教育長　　ちょっと煮詰まらん部分があるのですが。

○奥田委員　　実質4,500円を要は今ね。ややこしいのは、町が300円出して給食費が4,200円だと。だけど給食費は4,500円じゃないですか。今聞いていたらね。だけど集めるのが4,200円で済むように300円補助しているわけでしょ。というふうにおっしゃったら。その補助する期間をあと1年間延ばしますと。その後どう延ばしていくのかというのは町の財政で。私どもが考えることではないかな。それこそ議会のほうでその300円補助を町としてバランスをどのように捉えるのかは町として考えていただいて、とにかく要は今4,500円で子どもたちに提供するものがちゃんとできていればそれでいいですし、だから教育の現場で言うことは今4,500円では十分でないというような判断して、それはやっぱり4,700円にしてあげてというのはこちらが言うことと思うのですが、今4,500円でやっていただいているのでしたら、それは、それで。ただ、徴収の仕方として保護者から4,200円、町から300円というように明確にね。給食費は4,500円かかっているが、保護者からは4,200円で町から300円出しますというふうに。今やっとなら私はそのように理解しました。

○事務局教育振興部長　　ありがとうございます。それが今ちょっとアナウンスできていないものですから、松井委員がおっしゃっていただいたように、新たにその4月からも同じ形で行くのであれば、年度当初にアナウンスしたらどうだということでご意見いただいておりますので、その方向で考えさせていただけたらと思っております。

○臼井委員　　町が頑張っていることはどんどんお伝えしたら。

○事務局教育振興部長　　ありがとうございます。

○教育長　　ありがとうございます。

それでは、小学校給食費改定についての議案は、これで終わらせていただきます。

(会議録調整日) 令和4年12月23日

広陵町教育委員会

教育長

植村 佐史